

解答

一

- 問一 ① いぶき ② りょうし ③ こんりゅう ④ ほか〔らか〕 ⑤ あらわ〔す〕
問二 ① 功績 ② 境内 ③ 形相 ④ 傷〔む〕 ⑤ 収〔める〕
問三 ① イ ② エ ③ ア ウ ④ エ
問四 ① エ ② イ ③ カ ④ ア ⑤ オ

二

- 問一 A 口にする形でしか表現
B 本当に音にして外へ表明する前に、省みる
問二 「省察」というになった
問三 A 音の配列の指示対象について、お互いに共通理解
B 社会的交渉
問四 イ
問五 公共の場では、相手と対等な形で交渉にのぞみ、自らで判断を下すという、独立した一人の人格を持つことが求められているという自覚。
問六 公共性の萌芽
問七 ア

三

- 問一 僕がわざとボケていることを見抜き、初めて僕の笑いのパターンを批評した友達。
問二 太宰というゝるのだろう
問三 幼少期からゝ分を重ねて
問四 (1) ほとんどの大人に対して反感を持ち、どう接していいのかわからず、騙されないよう大人の言動を常に疑っていた。
(2) 大人と上手く関係性を築くことができないのは、自分の態度にも原因があったのだということ。
問五 A なんでこんなセンスあるやつが、こんな急におもしろくないあざとい失敗の仕方をするのか
B これ以上やったらバレるとか、これはおもしろくないという、その基準のライン
問六 A 人間の苦悩ゝ詰めている
B 自分と同じゝがいること